

「司法書士講座」講座説明会

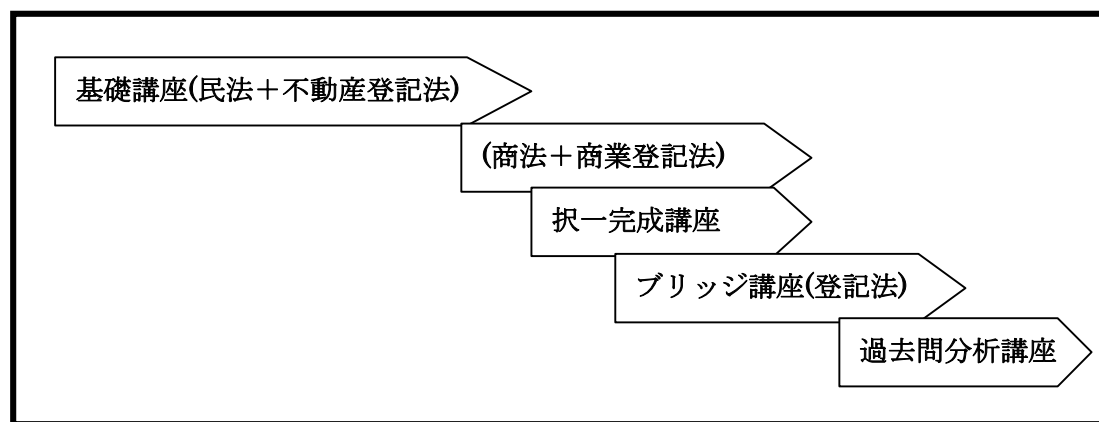
テーマ：カリキュラム・コースガイド

1. 講座カリキュラム（合格プラン1）

TAC/Wセミナーでは、試験の特徴をしっかりとカリキュラムに反映させております。今回は、初学者向けの「1年コース」の講座カリキュラム及びコースガイドの説明をさせていただきます。

（1）カリキュラムの特徴

★カリキュラムのイメージ図



★主な特徴

- ①実体法と手続法のリンク ⇒ 「民法/不登法・商法/商登法」を一緒に学習。これらを一つの科目として関連付けて理解し、知識が定着できるように学習します。
- ②科目関連を生かしたカリキュラム ⇒ 民法/不登法が終わると、民訴系がスタート。

★科目の括りと関わりについて

- ①出題数の多い4つの科目を「主要4科目」と呼びます。
民法／不動産登記法／商法／商業登記法の4科目です。
全部で53問が出題されます。出題総数が70問ですので、率にして75.7%の出題であり、とても重要な科目であることがお分かり頂けると思います。
- ②これ以外の、残り7科目を「マイナー科目」と呼びます。
科目によっては1問だけの出題科目もありますが、この試験の特徴である「基準点」というものを考えると、決して侮ることは出来ません。
- ③この試験は、膨大な知識量とその正確さが求められます。
そこで、より知識を定着させやすいように、特に主要科目については2回・3回とこれらの科目を学習できるカリキュラム設定としております。

（2）コースガイド

★「1年コース」について

以下の四つのインプット講座と定期テスト(全4回)で成り立っています。

- ①**基礎講座**(全84回)～主要4科目をしっかりと学習いただく、インプット講座です。

②**択一完成講座**(全 29 回)～マイナー科目を学習するインプット講座です。マイナー科目は、主要科目との関連が高い科目もあり、主要科目がある程度進んだ段階で、主要科目と並行して学習していきます。

③**ブリッジ講座**(全 25 回)～記述式問題を解くためには、択一式と記述式の知識を連動させること、及び実体法と手続法の知識を連動させることが重要です。

④**過去問分析講座**(全 10 回)～この試験で合格をつかむには、過去問をしっかりと分析して自分の力とすることが重要です。過去問を通じて重要論点を確認し、本試験での応用力を身につけていただけます。また、本試験のレベルから逸脱しない、効果的な最終学習をすることが可能です。

⑤このコースでは、全 4 回の**定期テスト**を実施いたします。自己の学習の達成度を確認し、アウトプットの訓練も出来ます。

★「1 年総合コース」について

このコースは、前項の「1 年コース」に早稲田合格答練ジャンプコース(全 8 回)と全国公開模試(全 3 回)をセットしたコースで、本試験直前期のアウトプットの訓練できるコース設定となっております。

直前期のアウトプット訓練はとても大事なことと考えており、総合コースをご利用いただくことで安心感が増し、これまでも多くの受講生に支持いただいております。

2. カリキュラムのまとめ

○実体法と手続法をリンクさせたカリキュラム

○このコースでは、主要科目を『基礎講座⇒ブリッジ講座⇒過去問分析講座』のなかで 3 回繰り返して学習します。また択一完成講座では、民事系科目の学習時期に民法の復習をかねた学習も出来ます。

○本試験が問う範囲を逸脱しないことがとても大事です。最大限の学習効果を実現できる、他校には、類のないカリキュラム構成となっております。

○登記申請書が書けるかを問う実務色の強い試験に対応できるように、択一の知識を記述の知識へとつないでいきます。

3. 受講スタイル

○通学科～教室講座・ビデオ (DVD) 講座

○通信科～DVD 通信講座・Web 通信講座

4. その他の特徴

○TAC/Wセミナーの司法書士講座は、無料で「Web フォロー (音声 DL 付き)」が受けられます。司法書士講座の Web フォローは、教室講座の 3 日後から (一部 4 日後から) 視聴開始できるようになっております。

○また、同じ合格プランの実施校の「教室講座」に、自由に「振替受講」することが可能です (無料)。フォロー用 DVD も、無料で視聴することが出来ます (要予約)。

○テキスト…受講料に含んでいます。

以上が、カリキュラム及びコース概要です。